

誤用例の研究

－中国語を母語とする日本語学習者の場合（Ⅰ）－

藤 田 昌 志

A Study of Error Cases of Japanese Language Learners Whose Mother Tongue Is Chinese : Part I

FUJITA Masashi

〈Abstract〉

While teaching Intermediate Japanese Language Composition for foreign students at the Center for International Students, MIE University, during the second semester of 1998, I collected errors from six Japanese Language learners whose mother tongue is Chinese, occurring in their compositions on six topics. I classified the errors into six error cases, as follows:

- I.Errors produced because students think only the correspondence in vocabulary between Japanese and Chinese.
- II.Errors produced because particles are omitted or misused.
- III.Errors produced from 'confusion.' Students produce errors after studying Japanese in the Elementary Japanese Language course, but the source of the error is uncertain.
- IV.Errors produced because of direct translation from Chinese into Japanese.
- V.Errors due to other reasons for misuse of expressions.
- VI.Errors produced because of the difference in custom of expression between Japanese and Chinese.

キーワード：誤用、“搭配”、混乱、直訳、表現上の習慣

一、序

筆者は1998年度後期に三重大学留学生センターにおいて開講された中級日本語作文の授業を担当した。対象者は初級修了者で、授業は主として『日本語作文Ⅰ』（C&P日本語教育・教材研究会編 専門教育出版刊）に沿って行ったが、各トピック終了時には当該トピックについての作文を宿題として課した。そして、次回の授業で口頭発表された作文について口頭でその間違いを直し、当該作文発表者は教師の指摘した間違いをその場で自

ら直すという授業を行った。

本稿で取り扱う誤用例の資料は上記授業から採集したものである。紙数の関係もあり、本稿では次のトピックの作文の誤用例を取り上げることにする。「自己紹介」「旅行」「夏休み」「私の国の教育」「映画」「日本での生活」「買物」の七つである。なお、授業参加者のプロフィールは次のものである。

仮名	性別	年齢	身分	所属学部
C	女性	20 代後半	研究生	人文
S	女性	20 代後半	研究生	人文
W	女性	20 代後半	研究生	人文
H	男性	20 代後半	研究生	工
L	男性	20 代後半	研究生	人文
R	男性	30 代前半	研究生	工

以上、6 名（すべて中国語を母語とする者）の産出した各トピック別作文の誤用例について以下、分類、分析していく。その際、誤用例を便宜上、次の六つに分類した。

- I 日本語と中国語の語彙的対応しか考えておらず、統語、呼応表現、“搭配”（＝語と語の「組み合わせ」）への配慮がないことによって生じた誤用
- II 助詞の脱落、誤用によって生じた誤用
- III 「混乱」による誤用（ある程度、日本語を学習した後に、文法・表現等の知識が整理されず、母語表現との関係が不明瞭なために生じるのであろうか、そうした論理的に説明の付きにくい「混乱」によって生じたと考えられる誤用を指して言う。）（以下、「混乱」による誤用と略す。）
- IV 直訳によって生じた誤用
- V その他の表現上の誤用によって生じた誤用
- VI 両言語の表現上の習慣の相違によって違和感を感じることから、一応、誤用に分類される誤用

次の二、誤用例の分類と分析、では、各トピック別作文に即しての具体的考察を行い、（今後、発表予定の）「誤用例の研究－鳥瞰的考察－」では、より鳥瞰的、全体的に、中国語を母語とする日本語学習者の誤用例についての分析、分類、考察を行うことにする。

二、誤用例の分類と分析

二-1 「自己紹介」の誤用例の分類と分析

C、S、W、H、L、Rの6名の作文を採集した。以下、上記分類に従って考察していくことにする。

I 日本語と中国語の語彙的対応しか考えておらず、統語、呼応表現、“搭配”（＝語と語の「組み合わせ」）への配慮がないことによって生じた誤用

- ①今まで日本へ来た（（変）て）もう7ヶ月でした。（（変）たちました。）（C）

“到现在为止，已经来日本七个月了。”

（注： A（（変）B）・・・・・・前のAの誤用表現をBの適切な表現に変えるという意味。／（C）は誤用例産出者の仮名）

- ②日本へ来たばかり（（付）の）時を振りかえると、本当に困りました。（（変）大変でした。）（C）

“回想起刚来日本的时候，真的是很“窘”。”

（注： A（（付）B）・・・・・・前のAの表現にBを付け加えるという意味。）

- ③去年の十月（（付）の）終わりに、研究生として、三重大学に着きました。（（変）来ました。）（H）

“去年十月底，作为研究生，我来到了三重大学。”

①は“七个月了”だから「7ヶ月でした」、②は“窘”だから「困りました」、③は“(来)到了～”だから「着きました」と語彙的対応しか考えていない。

II 助詞の脱落、誤用によって生じた誤用

- ①今は三重大学（（付）の）近くにある寮に住んでいます。（H）

“现在住在三重大学附近的寮里。”

日本語では明示的（explicit）であるが（＝この場合、助詞「の」）中国語では非明示的（implicit）な（あるいは省略が一般的な）表現であるために生じた誤用例である。

- ①今まで日本に来た（（変）て）もう7ヶ月でした。（（変）たちました。）（C）

I-①と同じ（C）による誤用例であるが、この場合の誤用の中心は接続助詞である。

Ⅲ 「混乱」による誤用

①(段落のはじめ。先行する文なし。)

私は明るい性格だと思いました。((変) 思います) (C)

“我觉得我是一个性格开朗的人。”

②今、私は日本語の勉強を((変) に) 趣味になりました。((変) 興味を持つようになりました。)

“现在我渐渐对日语开始发生兴趣了。”

中国語の“兴趣”は「興味」「趣味」「関心」等の日本語と対応するが、その際の対応のさせ方を誤ったために「興味」(○)を「趣味」(×)としたのである。もう一つの問題は“发生(兴趣)”を「(趣味)になりました」としていることである。“开始～了”を「～ようになりました。」と考えたら「～ように」の前に動詞様のものが来ることは初級で学習しているはずなのに「(趣味)になりました」としている。それは日本語の「趣味」を「興味」と混同しているだけでなく、その「趣味」をこの場合、“搭配”(=「統語」)上ありえない「～になりました」と結びつけた「混乱」によって生じた誤用であろう。(もっとも「今、私は日本語の勉強が趣味になりました。」とすれば必ずしも誤用ではないからそこには誤用例解釈上の微妙な問題は存在するのであるが。)

③日本に来る前に((削)) 中国の銀行の会社員でした。(S)

“来日本之前是中国银行的职员。”

(注：A ((削)) …… 前の A の表現を削除するという意味。)

「[～する] 前に [～する]」という表現は初級で学習するが、その際の「前に」の形が固定化して記憶され、常に「前に」の形でしか表現できなくなったことによる誤用例であろうか。対応する中国語をみても「に」に対応するものはないのであるから「混乱」によるものと考えざるを得ないであろう。次の例は逆に、表現されるべき「来た」という表現が脱落した例である。中国語には対応する表現“来”があるのであるから何らかの「混乱」によって生じた誤用であろう。

④私は中国から((付) 来た) 工学部情報工学科の留学生です。(R)

“我是工学部信息工学科的中国来的留学生。”

誤用のもう一つの可能性としては書きまちがいによる「来た」の脱落ということも考えられる。

IV 直訳によって生じた誤用

- ①父は政府の役人（（変）公務員）で、母は（（変）も）政府の公務員（（変）公務員）です。（S）

“父亲是政府的官员，母亲是政府的职员，～”

自分の父親のことを「政府の役人」と言うのは少し偉そうである。“官员”の直訳である「役人」を使ったのであろうが「役人」には横柄な感じが言語的色彩として感じられるし、「公務員」としておくのが穏当であろう。

- ②日本に来る前に（（変）まで）海で泳いだことがなかったです。（H）

“来日本之前，我还没在海里游过泳。”

「「逆から」の意識」^①への不理解による誤用例である。「日本に来るまで海で泳いだことがなかったです。」としなければならない。

V その他の表現上の誤用によって生じた誤用

- ①（一番楽しいことは家族や友達から手紙をもらうことです。）私も（（変）は）たくさん（（削））趣味が（筆者注：又は「も」）（（付）たくさん）あります。（W）

“（～，最高兴的事是收到国内家人，朋友的来信。）我兴趣也很多。”

一番の問題は「私も」の「も」である。「も」を含む文の前の文に何ら「も」に対応する表現（たとえば「彼は趣味がたくさんあります。」）がないのであるから「私は」とししなければならない。対応する中国語を見ると“我兴趣也很多。”と“也”（ふつうは粗く言えば日本語の「も」に相当する）があるが「口調を和らげる」意の“也”であるから「私は」でよい。百歩譲って「私は趣味もたくさんあります。」とすればまだよいが、そうしていないのであるから「私は趣味がたくさんあります。」としなければならない。単に助詞の誤用というよりムードに関係のある、表現上の問題であるからVで取り上げた。

VI 両言語の表現上の習慣の相違によって違和感を感じることから、一応、誤用に分類される誤用

- ①日本に住んでいた1年間には（削）一生懸命勉強する（（変）した）ため、日本語や専攻（（変）専門）の技術がだんだん分かるようになりました。（H）

“在日本所过的一年中，努力学习，因此，日语啦，专业技术啦，也渐渐地明白了。”

今、_____部分のまちがいであるテンスや語彙的、助詞的のまちがいは置くとして、日本語の文章表現では自己称揚を行うのは一般的ではないのにこの作文では自己称揚を行っている。（＝「一生懸命勉強したため～分かるようになりました。」）母語の中国語でもそうになっているから母語の影響であろうがそうした違和感を感じる例である。誤用と言うには抵抗のある作文例であるが違和感のあることは否めない。（外国語の直訳文がどこまでその言語に影響を与えていくかは言語の「力」関係によるのであろうか。）

二－2「旅行」の誤用例の分類と分析

I の誤用は特に顕著なものはみられなかった。採集した作文例が少ないことにもよるのであろうか（C、S、H、L、R）。それとも、トピックとの関連であらうか。

II 助詞の脱落、誤用によって生じた誤用

- ①（東京まで [筆者注]）三重県から約7時間が（削）かかりました。（L）

“从三重县妹妹驾车约七个小时。”

「7時間」という数量を表す表現の後に助詞「が」を付け加えてしまった誤用例である。初級学習者によく見られる誤用である。

- ②大阪市内で（（変）は）色々な交通機関があり、～（R）

“～大阪市内有各种各样的交通设施，～”

「～に～がある」という初級の存在表現の型が身につけていないからか、それとも「混乱」によるものなのか理由のよくわからない誤用例である。ただ、一つ考えられるのは具体的な物の存在をいう表現（たとえば「机の上に本がある」）ではなく、「教室で試験がある。」「来週、学校でコンサートがある。」のように何かが「起こる」（“発生”）「行われる」（“被进行”）の意味の表現のときには「～で～がある」という文型が使用できる。^② そのことによって生じた「混乱」が誤用を生んだのかもしれない。

Ⅲ 「混乱」による誤用

- ①空は青くて、周囲は（(変)を）山をめぐらしてあります。（(変)山がめぐっています。）（C）

“天空是蔚藍的，周圍群山環繞，～”

対応する中国語を素直に直訳すれば「周囲は山がめぐっていて、～」（正）となるのに「周囲は山をめぐらしてあります」（誤）としている。中国語の語順から考えて何ら「山をめぐらす」（？）という表現にする必要はない。「山がめぐる」と自動詞使用表現にすればいいのに誤用例を産出している。自動詞を用いた表現と「(他動詞)である」表現の「混乱」によって生じたものであろうか。

- ②今、残っている（(削)）深い（(変)深く）印象は（(変)印象に残っているのは）清水寺のもみじでした。（(変)です）（S）

“如今，清水寺的紅葉還給我留下深刻的印象。”

もう一度、対応する中国語を日本語にすれば「今でも、清水寺の紅葉は深く印象に残っています」となる。なんら「今、残っている深い印象は」と印象を主題に持ってくる必要はない。言語は線上的（linear）に進むものであるから最初に何を表現として持ってくるかによって後ろの部分が拘束を受ける。この作文を産出した学習者は「残っている」から始めたためにこうした文を作ってしまったのかもしれない。^②（外国語学習者は初級学習後、様々な表現の可能性を模索するのかもしれない。誤用の産出を防ぐには教える側が discourse レベルでのプロトタイプを提示する必要があるのではないか。とりわけ初級から中級へ向かう作文の授業のときにそのことが言えると思う。^③）

Ⅳ 直訳によって生じた誤用

- ①二日目、私たちは海辺に行って、およぎました。これは（(変)このとき）私が（(変)は）はじめて海でおよぎました。（C）

“第二天，我們去了海邊游泳。這是我第一次在海邊游泳。”

中国語では可能な表現でも、それを日本語に直訳したからといって日本語として正しい文になるとは限らない。この誤用例では文が「ねじれ」てしまっている。「このとき私ははじめて海でおよぎました。」としなければならない。もしくは「これが私が海で泳いだ

最初です。」とでもする必要がある。

V その他の表現上の誤用によって生じた誤用

- ①今年の夏休みに先生と（（変）や）先輩たちは（（変）と）ゼミ旅行として（（変）に）尾鷲に行きました。（C）

“今年的暑假，我和老师及前辈一起去尾鷲旅行。”

対応する中国語から見ると「私は先生や先輩たちと～」とするのがよい。日本語では一般に「私」が省略されるのが普通であるが、そのことしか頭になかったのであろうか。単に助詞の誤用というより表現上の習慣（常に“我”（＝「私」）を表現する中国語とそうでない日本語）がからんだ事による誤用なのでここに分類した。

- ②そのまつりから伝統的な日本文化を感じます（（変）感じました）。

“这使我感到了传统的日本文化。”

中国語でも“了”がついているのだから「感じました」とすればいいのにそうしていない。中国人学習者の場合、すべてを「です」「ます」か「でした」「ました」のどちらかに統一してしまうことがよくある。使い分けの不明瞭さから来る一面化であろう。（更に言えば、作文などの場合、「です」「ます」体と「だ」体が無原則に混ぜて使うような誤用もある。その場合は文章に変化をつけることと統一性の混同であろう。）

- ③27日の朝、2時に頂上を（（変）に）向いて（（変）向かって）出発しました。（H）

“27号早晨2点开始就往山顶爬。”

- ④大抵（（変）大体）2時間半かかって大阪市が見えました。（R）

“大至用了2个半小时就能够看见大阪了。”

③では「（目的地）に向かう」（正）という表現を「（目的地）を向く」（誤）という表現にしてしまっている。助詞「に」と「を」の混同である。日本語の動詞の混同（一般的意味での）（＝「向かう」「向く」）は中国語に対応が見つけにくい（＝“往～爬”（はう））ことから理解できる。

- ④でははじめて大阪へ行った経験を書いた作文であるから「大抵」（誤）は「大体」（正）

にしなければならない。「大」のつく語を適当に用いただけなのかもしれない。

Ⅵの誤用例は特になし。

二-3 「夏休み」の誤用例の分類と分析

I については際立った誤用例は見られなかった。

II 助詞の脱落、誤用によって生じた誤用

①水泳をしたあとで、私たちはテントの中に（(変)で）焼き肉を食べました。（H）

“游泳后，我们就在帐篷中吃烤肉。”

動作の行われた場所を表す「で」を用いるべきであるのに、事物の存在を表す「に」を用いている誤用例である。初級を終えた時点で、反省的に初級の文法項目を整理し再把握しておかないからこうした誤用が生じるのであろうか。中国語の介詞の“在～”が日本語の「～で」「～に」の両方に分かれて解釈されることから「一（中）対二（または多）（日）」の表現の関係であるから誤用が生じるのは首肯できるのであるが。

②アルバイトをする前に（(変)は）、ちょっと心配していました。（L）

“～，打工之前，有点担心。”

「自己紹介」のⅢ「**混乱**による誤用」でもとりあげたが「～（する）前に～」という表現のバリエーションの間違いである。「自己紹介」のところでは「～（する）前、～でした」と「（～する）前に～」の「に」を削除しなければならなかったが、ここでは「（～する）前は～」と「は」に変えなければならない。二つの動作の行われる順序をいうのではなく、ある動作の前の心理状態をいうからである。

③ピザの種類（(付)は／も）20 ぐらいもあります。（L）

“比萨饼的种类也有 20 多种。”

主語となる「ピザの種類」のあとに「は」又は「も」を付加しなければならない。「X [数量一般] モ + P [肯定]」の形で「数量が自分の予想より、あるいは世間の常識より多いことを強調する」¹⁴⁾ 場合で「20 ぐらいも」と「も」があることから、前の「ピザの種

類」のあとに助詞（「は」又は「も」）を付加しなくてもいいと思ったのであろうか。中国語は日本語と同様、提題化（Topicalization）の表現を多用する言語であるが、日本語のように「は」を付加する必要はない（＝非明示的でよい）ことから起こった誤用であらうか。

- ④みんなは（（削））親切な人たちで、私にたくさんのことを教えてくれました。（L）
“大家都挺亲切，教给了我不少东西。”

③と逆に「は」を削除した方が文の流れがスムーズになる。「対比」も「提題」の意味も前面に出す必要はないから「は」は削除した方がいい。（もう少し言えば表現の習慣性に関わることではないかと思う。）

Ⅲ 「混乱」による誤用

- ①海の方（（変）水平線）を（（変）に）向けて（（変）向かって）泳いで（（変）泳いでいると）海に溶ける（（付）ような）感になりました。（（変）感じがありました。）（H）
“尽力往海平线的方向游去，感觉自己与海溶为一体了。”

一番の問題は「～を向けて」（誤）を「～に向かって」（正）にしなければならないことである。「向ける」（他動詞）と「向かう」（自動詞）の混同である。「混乱」と言うには厳しすぎるであろうが、中国語の“往～的方向游去”を「～の方へ泳いで行く」と直訳すれば問題はないのであるが、“方向”（中）によって「向ける／向く」（日）が想起され、「混乱」が起こったのではないかと考えられる。それで「**「混乱」による誤用**」に分類した。日中間の漢字の意味と用法の異同（一字レベル、語レベル、句レベルでの）は今後の研究課題としてまだまだ多くの未解決な部分が残っているが、こうした中国人学習者の「連想」（漢字を見てどういう日本語の表現を連想するか）の問題も今後、考えなければならないだろう。

- ②～日本から来た人もいました。そして家族を連れ、海水浴に行き、海洋公園に行き、崂山にも登り、遊びばかりしていました。（（変）遊びほうけていました。／遊んではかりいました。）（R）

“～从日本来的旅游者也有。这样我们一家在青岛玩了2天，到海水浴场洗海澡，逛了海洋公园，又爬上了著名的崂山，尽情地玩，～”

「遊びばかりしていました」(誤)は「本ばかり読んでいました」と違い、「遊びをする」とは言わないから(「火遊びをする」「男遊びをする」とは言う)「遊んでばかりいました」(又は「遊びほうけていました」)に変えなければならない。初級修了者は耳に入ってくる大量の日本語の中から聞き手に理解可能な日本語の許容範囲を見定めなければならない。そして、聞き手に理解不能な日本語が一部分ならいいが、それが大部分になるとその日本語は意味不明なものになってしまう。

IV 直訳によって生じた誤用

- ①・・・・・・彼はそれでもまだ間違いを指摘しないで((変)なぜ違うかを指摘しないで)しかるだけです。私も同じ経験がありました。((変)同じ経験をしました)(L)
 “・・・・・・同样还是被他批了一通不指出毛病。我也有一样的经历，～”(L)

ピザ店でアルバイトをしたときの横暴なマネージャーのことを書いた作文の一部であるが、そのマネージャーがアルバイトの作ったピザのどこが見本と違うのかを間違いが二度目でも指摘しないでただ叱るだけであり、作文の筆者も同様の経験があったということを述べたのであるから「間違いを指摘しないで」(誤)を「なぜ違うかを指摘しないで」(正)とし、「同じ経験がありました」(誤)を「同じ経験をしました」(正)にしなければならぬ。“不指出毛病”は直訳すると「間違いを指摘しない」であるから、問題は言語表現の習慣上の相違ということになる。直訳による誤用例の類型化のためにこうした事例を今後、多く集める必要があるであろう。

- ②家族と長い間離れていたことを忘れそうでした。((変)忘れてしまいました。)(R)
 “～几乎忘掉了一年多的分离，～”

一年三カ月ぶりに妻子と青島で会った筆者が家族に会って楽しく過ごした二日間のことを思い出して書いた作文の一部である。“几乎”は「ほとんど～しそうである」(日)であるから直訳としてはいいのであるが(あまりの楽しさに家族と長い間離れていたことを)「忘れてしまいました」とするのが日本語表現としてはいい。前の①と同様、言語表現の習慣上の相違の問題である。

V その他の表現上の誤用によって生じた誤用

- ①だからピザを作るのは複雑で、日本語、特に日本語の外来語がわからない私にとって、

とても難しく思いました（(変) 思えました）。(L)

“所以，对于连日语特别是日语中的外来语几乎不懂的我，的确很难。”

「思いました」は自発の意を表す「思えました」にした方がよいが「加訳」（日→中）もしなければならない（＝上記中国語に対応する表現がない）から中国語を母語とする日本語学習者には非常に難しい表現であろう。

Ⅵの誤用は特になし。

以上のように誤用例の分類、分析を行ってきたが、次回発表の「誤用例の研究－中国語を母語とする日本語学習者の場合（Ⅱ）－」では「私の国の教育」「映画」「日本での生活」「買物」の各トピックについての誤用例の分類、分析を行い、その上で全体的な視野に立った鳥瞰的考察に進みたいと思う。

【注】

- (1) 藤田昌志（1999）「日中対照表現論－意識（日→中）について（Ⅰ）－」三重大学留学生センター紀要第1号 p. 32
- (2) 王彦花編著（1998）『日語语法难点实例分析』商務印書館 p. 17
- (3) そうしたプロトタイプの提示を目的とした教材を筆者はすでに作成済みである（試用版）。
- (4) 寺村秀夫（1991）『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版 p. 77